

私鉄車両めぐり 第4分冊

鉄道ピクトリアル 1963年5月号・臨時増刊 通巻145号

表紙 上信電鉄デキ1……………高松吉太郎

グラフ

消えゆく鉄路……………	1
羽幌炭砒鉄道……………	2
津軽鉄道……………	3
鹿島参宮鉄道……………	4, 5
上信電気鉄道……………	6, 7
上毛電気鉄道……………	8
加越能鉄道……………	89
伊豆箱根鉄道島津線……………	90, 91
三重交通三重線……………	92, 93
南海電気鉄道貴志川線（旧和歌山鉄道）……………	94, 95
尾道鉄道……………	96

記事

羽幌炭砒鉄道……………	小熊 米雄…	9
津軽鉄道……………	金沢 二郎…	16
鹿島参宮鉄道……………	白土 貞夫…	23
上信電気鉄道……………	柴田 重利…	31
上毛電気鉄道……………	園田 正雄…	40
加越能鉄道……………	小倉 文夫…	46
伊豆箱根鉄道島津線（軌道線）……………	禅 素英…	55
三重交通三重線……………	矢納 重夫…	64
南海電気鉄道貴志川線（和歌山鉄道）……………	藤井 信夫…	74
尾道鉄道……………	和久田康雄…	80
私鉄車両めぐり<第2分冊>補遺……………		86

「私鉄車両めぐり」

<第4分冊>

鉄道ピクトリアル本誌で、「私鉄車両めぐり」を連載することすでに56社（1962年5月現在）であるが、190社におよぶ地方鉄道・軌道を本誌で綿々と紹介していたのでは、これを完結するには何十年を要するか判らないというので、本誌が手のおよばない「知られざる私鉄」を主にまとめて別冊として刊行することとし、その第1分冊15社分、第2分冊14社分、第3分冊路面電車編13社分、計42社分を既刊したことはすでにご承知のとおりである。

本分冊は、その第4分冊として残余の大もの十数社を選んでこれにスポットを当ててみたのであるが、分冊を重ねてゆくにしがってほしいに社歴・沿革・車歴などは複雑さを加えるばかりで、筆者は今回も新人の活躍を期待しながらも依然ベテランの手を煩わしたにもかかわらず、調査・取りまとめにも意外の手数を要し、当初企画したものを数度にわたって変更するなどの経過をたどって、ようやく刊行の運びとなったものである。それだけに、本分冊は前3回の分冊にくらべて、いずれも波瀾万丈の多彩な特色あふれた私鉄を高い精度で紹介できた

ものと考えている。ただ、地理的に九州・四国所在の私鉄を1社も掲載できなかったことは、前記事情によるものとはいえ、不本意な限りで、次号でその責をふさぎたい。

本分冊の内容検討には中川浩一・青木栄一、本文編集には竹島紀元、グラフ編集には高松吉太郎、線路図の作製には青木栄一の諸氏に多大の手数をおかけしたことを付記して謝意を表したい。

なお、巻末に第2分冊の補遺をまとめたが、これには判読できる誤植については勝手ながら省略させていただいたことをお断わりしておく。

〔表紙写真〕「上信電鉄デキ1」

高松吉太郎

32-3 高崎駅構内にて
セミパール ヘキサー F3.5
f 5.6 1/250 フジSS

〔1頁写真〕「消えゆく鉄路」

高松吉太郎

38-2-24 伊豆箱根鉄道島津線 玉井寺前にて
ミノルタオートコード ロッコール F3.5
f 5.6 1/200 フジSS